

報告事項カ

令和5年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について

令和5年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について、別紙のとおり報告します。

令和5年8月9日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和5年度山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の概要について

令和5年8月9日

鳥取県教育センター

1 目的 島根大学教師教育研究センターと鳥取県教育センターがより実務者レベルで連携し、鳥取県内学校現場の現状を踏まえた教員支援と人材育成に向けた具体的アクションを協議する。

2 日時 令和5年7月13日（木）午後4時15分から5時15分まで

3 場所 鳥取県教育センター等（Web会議システムを使用した遠隔会議）

4 出席者 島根大学教育学部副学部長
島根大学教育学部附属教師教育研究センター長、講師、特任教授
島根大学教育学部附属教育支援センター長、准教授
島根大学教育学部小学校教育専攻講師（山陰教員研修センター兼任教員）
鳥取市総合教育センター所長
鳥取県教育センター及び鳥取県教育委員会事務局教育総務課参事
（主管は鳥取県教育センター）

5 内容

（1）若手教員の育成について

○山陰若手教員交流セミナー【島根大学】

- ・年間2回実施（8月は対面、12月はオンライン）
- ・鳥取県から18名希望

○本年度の初任者訪問【鳥取県教育センター】

- ・初任者の所属校での様子とメンタル面の状況把握と支援及び指導力向上が目的
- ・授業実践又はメンターチーム研修の参観及び初任者と指導主事の1対1での協議
- ・島根大学出身者への島根大学教職員（主にゼミ担当）の同行訪問
- ・鳥取市については、鳥取市総合教育センターが実施（年間2回）

（2）教員養成での取組について

○とっとり未来教師セミナー【鳥取県教育センター】

- ・教育センター主催で8月に1回実施（同様の会を教育人材開発課が2月に実施予定）
- ・大学生等に鳥取県の教師に関心をもってもらい、教師を目指す意識を醸成する
- ・年齢の近い先輩教師（アンバサダー）からアドバイスをもらう

○1000時間体験学修【島根大学】

- ・とっとり未来教師セミナー、エキスパート教員公開授業から学ぼう、CHA×3プログラム※等、教育実習では学べない多様な経験を積む

※ CHA×3プログラムとは … 中学生と地域の大人・大学生が少人数のグループで、働き方や生き方等のテーマに沿って話し合う教育プログラム

(3) 連携講座「しまだい学校教員研修」【島根大学】

○受講状況

- ・一人一人の教員が自律的に学び続けていく機会を充実するために、島根大学が山陰両県の教育委員会と連携し、教員免許更新制の下で培ったノウハウを生かした研修講座を開設したもの。全27講座あり、各10名の受講が可能
- ・現時点では、鳥取県からの受講希望者は65名と少ない状況
- ・初年度のため、受講希望者は少ないが、来年度以降、希望の多い研修については、会場を鳥取の中部会場にする等の対応も検討

○教員研修の高度化に資するモデル開発事業と今後の予定（アンケート等）

- ・「限られた時間」で取り組めるハイブリッド型の研修を開発・実施することが目的
- ・教員研修における学びのモデルケースをリーフレットにまとめ、周知を図る
- ・鳥根県及び鳥取県の教員1500名を対象とした質問紙調査を予定

(4) その他

○島根大学教育学部ディプロマポリシーの改訂について（情報提供）

- ・大学4年間の学びの到達目標を示したもの
- ・鳥取県の教員育成指標にも対応したものとする

6 主な意見・提言

○連携強化と教員支援・人材育成に向けた具体的取組

- ・初任者へのアンケート結果より、授業についての困り感に加え、児童生徒との人間関係づくり、学級経営に対する困り感が目立つことから、大学においても指導の充実に向け検討する。
- ・初任者研修において、島根大学出身者への島根大学教員の同行訪問を本年度も実施する。実態の把握とともに、悩みや困り感に応じた助言や支援を行い、初任者の意欲向上につなげる。
- ・島根大学卒業の講師の所属校訪問についても行う。これについては、島根大学と各市町村教育委員会とで連絡・調整を行い実施する。
- ・連携講座については、どのようにPRを行っていくのかが今後の課題となる。
- ・1000時間体験学修の取組が、県内の各地域において、それぞれの方法で広がりを見せている。学生段階で児童生徒との関わる機会や学校の状況を知る機会となり、有効である。